

TNVNこれからの活動

ネットワークニュース
50号 記念号

2005年度活動計画 —幅広い活動を目指して—

13年目を迎えたTNVN総会が4月24日(日)午後1時45分～5時00分、東京ボランティア・市民活動センターのB会議室で11名の方々が出席され開かれました。当日が団体の総会日やそれぞれの事情で出席者が限られ、正会員37団体から委任状が届きました。(現正会員数79団体)

総会では2004年度の活動報告・会計報告が承認され、引き続き役員選挙と2005年度活動計画・予算がありいずれも承認されました。総会後の講演会・懇親会は各地域で活動している方々の有意義な話し合いが持たれました。

本年度は役員(下記参照)とスタッフ・運営委員の方々とで活動を進めていきます。

最近の日本語ボランティア活動は全国的にそれぞれの地域で、実情に合わせた活動が展開され、その成果と評価を得て、そして期待されています。

TNVNのニュースレターでも各地域での日本語ボランティア活動の様子や、活動を取り巻く現況・ご意見をお知らせしてきました。

首都圏・東京は場所柄、様々な外国人が区市部を越えて活動や生活をしています。中には当然、日常の生活を通してことばの壁をなくして日本人と接するために様々な形で日本語の学習を望んでいる多くの方々がいます。一方、直近の中越

地震の状況を踏まえて、外国人に適切な情報が行き届き、少しでも安心出来る対応が出来るようにすることが望まれます。

こうした状況で首都圏での日本語ボランティア活動は大きな課題に向けて活動をしています。

TNVNはネットワークとして 何をすべきか!

個々、個別の課題ではなく、広域に跨る首都圏・東京の課題に目を向けて、現状とその先を踏まえた活動を考えていきます。その為の柱として。

1. 学齢期児童の日本語学習支援について 日本語ボランティアはいかに活動するか

①学齢期の子ども達の日本語学習について広く現状を把握。

②学齢期の子ども達への学習支援の在り方について情報交換会を開催します。

③①、②から研究会を設け次への展開を検討します。

2. 活動を通して行政との関わりを深め、 活動の裾野を広げる。

具体的には国際交流・協力TOKYO連絡会のメンバーとして、東京都の施策に協力し、日本語ボランティア活動の現状理解と支援を働きかけます。

3. ホームページの充実

TNVN-HP は日本語ボランティア学習支援活動を求めて、国を問わず関心のあ

る人達からのアクセスが非常に多く、こうした状況に応えるために、HPの内容の充実を図る必要があります。このための進め方を検討し、具体化します。

またHP上の「日本語ボランティア教室ガイド」の更新も逐次進めますので各教室の活動内容に変更が有れば連絡を願います。

これらの活動は会員の方々は勿論、外国人への支援団体、日本語教育関係者、そして行政各機関からの支援とご意見・ご提案が欠かせません。

またITの時代ですが、お互いが顔を合わせて話し合うことが大切です。

目標は、地域で生活する人達が国籍を問わず、安全で、安心の出来る生活を目指した日本語ボランティア活動を進めていくことが大切と考えています。

(梶村 勝利)

2005年度役員

●代表 梶村 勝利

早稲田奉仕園日本語ボランティアの会/新宿区(再任)

●副代表 岩佐 幹彦

江戸川ユニオン日本語教室/江戸川区(新任)

●事務局長 林川 玲子

ビバ日本語教室/港区(復任)

●会計 床呂 英一

まちだ地域国際交流協会/町田市(再任)

●会計監査 竹田 仁之介

田無国際交流サークル/西東京市(新任)

ニュースレターの歩み

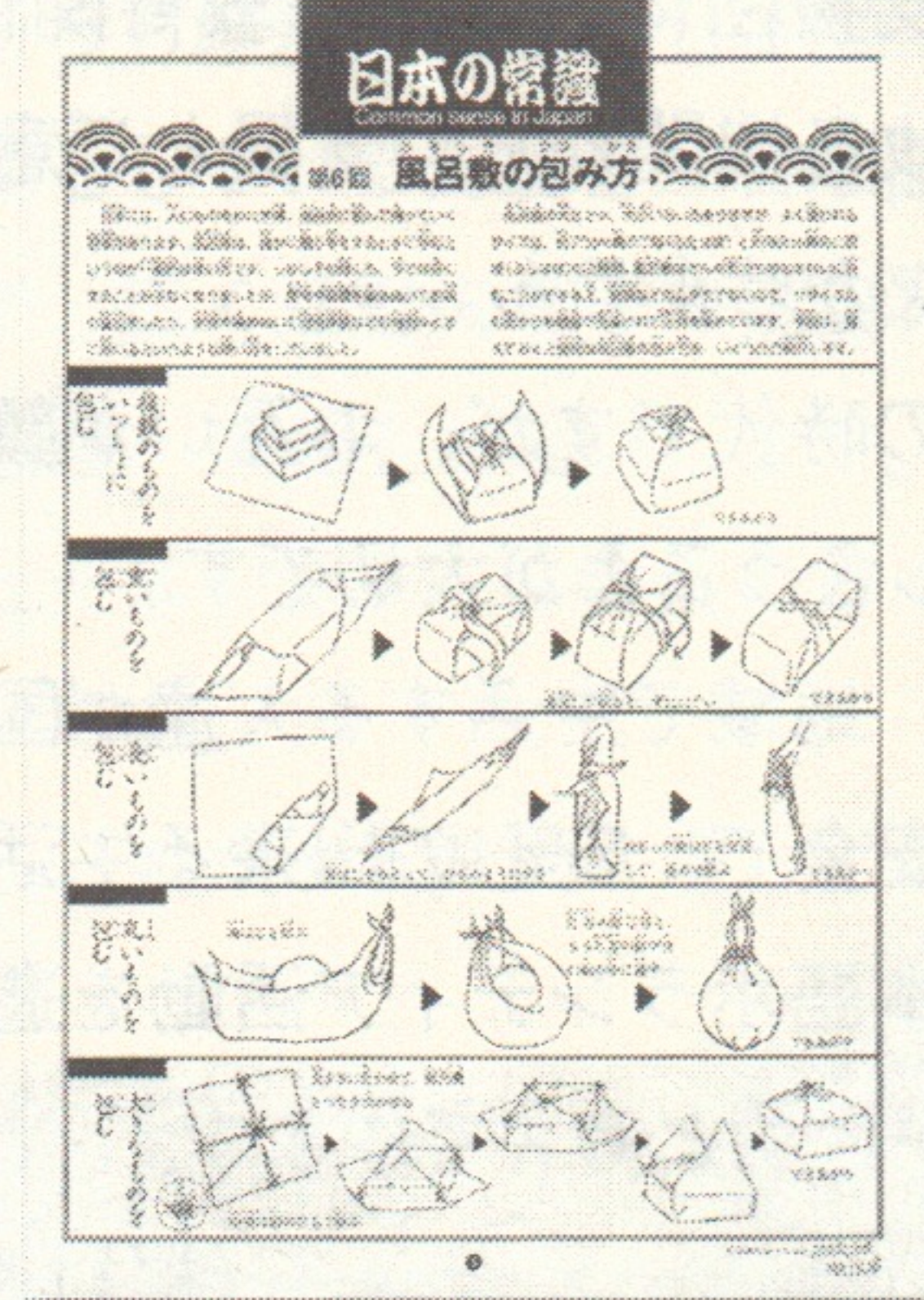
● 9号96年4月 / トップページ



● 15号97年5月 / Nice to meet you



● 23号99年10月 / 日本の常識



● 30号01年3月 / ZOOM IN



東京日本語ボランティア・ネットワーク（以下TNVN）がスタートして二ヶ月余経った94年2月28日に、ネットワークを結成した目的の一つ、情報提供、情報交換の場としての「日本語ネットワークニュース」第1号が発刊された。会員（当初45団体・3号発行時 71団体）の皆さんへの伝達手段として、ニュースレターの発刊は急がれていた。まず、3号（94年10月3日発行・A4版）までは手刷りのものを配布した。4号（95年3月6日発行・A4版12ページ）からはKDD国際電信電話（株）からの助成金を得、印刷できるようになった。写真がたいへん鮮明になって体裁もよくなり、このニュースレターのおかげでTNVNの信頼度も高まったように思える。KDDの助成金は21号（99年6月7日発行）まで続いた。

第一面を飾るトップ記事を見ると、30号（01年3月6日発行）あたりまでは交流会、講習会開催のお知らせや報告が目立つ。ボランティアたちの、他の団体と交流したい、日本語ボランティアとしてもっと力をつけたいとの意向を受けて、頻繁に実施されたことがわかる。第2回交流会（94年7月30日開催）では、「日本語学校VS日本語ボランティア教室」という設定でディベートをした。当時、アマチュアの日本語教師などと言われて批判を受けることも多く、ボランティア自身が自分たちの立場をはっきり認識したいと望んでいた。

「NICE TO MEET YOU!」（会員団体のプロフィール紹介）は、創刊号から現在まで続いている連載もので、自分たちの団体との共通点を見つかったり、地域による違いなどを発見したりなど、活動の参考になっている。2号（94年6月14日発行）から登場した「ZOOM IN」（日本語ボランティアレポート）は、ボランティアや外国人に関わる団体をスタッフが取材、報告して

いる。一回目は、TNVN発足のきっかけを作り、育ててくださった東京ボランティア・センター（現 東京ボランティア・市民活動センター）。5号（95年5月15日発行）でTNVNのシンボルマークが決まり、9号（96年4月8日発行）からはタイトルに登場した。13号（96年12月11日発行）には、TNVNがインターネットホームページを開設したという記事が載っている。ニュースレターに加え、情報提供をする場が増えたことは、日本語ボランティア活動に関わろうとする人たち、学習者も支援者にとっても朗報となった。

日本語ボランティア活動が広がり、知られるようになって、その活動を正しく認知してもらいたいと、21号（99年6月7日発行）からタイトルの下に、TNVNの活動主旨を載せるようになった。また、この号から始まった「日本語ボランティアの現場から」には、各団体に呼びかけて学習者とボランティアの声を集め、掲載している。ボランティアと学習者の関わり方や、学習者の日本での生活の一端がうかがえて興味深い。

34号（01年12月7日発行）からは、経費や編集スタッフの負担に限界が見え、ページ数よりも定期的に発行することの方が重要と決断した結果、それまで12ページだった紙面を8ページにした。「日本語ネットワークニュース」は、会員に配布するほか、他地区のネットワーク、行政および民間の関連機関などに送っている。また、東京ボランティア・市民活動センター等の機関紙ラックに置き、誰でも自由に読めるようになってきている。このニュースレターは、会報であるとともに、日本語ボランティアの認知度を高め、その情報を広く伝えるという重要な役目を担ってきた。なお、TNVN事務局で1号から閲覧できる。

（林川 玲子）

「国際化市民フォーラム in TOKYO」の分科会

—在住外国人の定住化と日本語学習支援—で

「外国人の定住化の新時代を迎え、地域国際化の課題を明らかにするとともに、激動する世界と向き合う国際協力の今を共に考える」を目的に、2005年2月19日 調布市文化会館たづくりで国際化市民フォーラム in TOKYO が「東京の国際化・交際協力を語る」と題して開かれました。

共催：東京都国際交流委員会・国際交流・協力TOKYO連絡会



今回は在住外国人への支援活動を捉えて8分科会が開かれました。中でも分科会「在住外国人の定住化と日本語学習支援」「在住外国人の子どもの教育と地域からの支援」「在住外国人の身体と心の医療問題」には、定員を超える人が参加されました。

「在住外国人の定住化と日本語学習支援」では、在住外国人がより効果的に学習出来る機会を提供し、地域に溶け込み、安全で安心な生活を営めるために必



要な日本語学習支援の現状と課題を取り上げ、3人の方が報告しました。

[コーディネータ：梶村勝利 (TNVN)]

1 自主活動をしている団体の日本語学習支援活動の一例 (特に地域でのネットワーク活動の面から)

◎山辺 真理子さん

(西東京にほんご教室：西東京市)

西東京市で活動している7つの日本語教室が連絡会をつくり、行政との情報共通化に向けての取組み、市民へ活動の紹介と理解を深めるための「パネル展示」を行っている。

2 区市公共団体との連携した日本語学習支援活動の一例

◎吉村 多恵子さん

(KUNIFA日本語サポート：国立市)

◇大学関係者、公民館職員と公民館で活動している市民の三者が一体となり「くにたち地域国際交流会」を運営。

◇「外国人のための日本語教室」講座の後、ボランティアによる学習者への会話の機会を作り日本語学習支援をしている。

3 国際交流協会での日本語学習支援活動の一例

◎中山 真理子さん

(中野市国際交流協会：中野区)

1990年から中野国際交流協会の行っている日本語クラスの特長が紹介され、ボランティア養成講座と会の運営、更には学習者との協力関係など幅広い活動が紹介されました。

詳細は報告書を参照して下さい。

●問い合わせ先

東京都新宿区西新宿2-8-1 TEL 03-5320-7739

東京都生活文化局文化振興部内

日本語学習の場は言葉の学習に留まらず、学習者とボランティアがお互いに「心の結びつき」を持って接することが必要です。話し手の気持ち（こころ）が聞き手に正しく伝わるような日本語の表現を伝えることも、日本語ボランティアに期待されています。

「心の結びつき」を中心に言葉以外にも何があるのか、捉え所がなかなか難しいテーマでしたが、活動の場でボランティアが学習者にどう対応しているか、以下の話の中心となりました。

① 学習者に対して

学習者の意図に合わせ・誠意をもって対応しているが、これを受け止めて貰えない場合がある。

情報交換会

日本語学習支援と「こころ」の結びつき

2005年2月27日(日)、東京ボランティア・市民活動センター(新宿区)に14名の方が参加され、林川玲子さんの司会で進められました。

② 学習者は

ボランティアを見て選択し、都合が良いところに行く

③ 従って

◎来る魅力をどう出すかで、言葉にこころを持たせ、悩みを聞く心の理解者になる。

◎グループ活動、一対一いずれもお互いに気持ちが通じ合える事では。

④ 必要なことは

◎学習者に交流の場・居場所をつくる。

◎まず「あいさつ」が一番、日本語で声を掛けてあげる。

◎日本語を共に学ぶように、学習にゆとりを持たせる。

⑤ だが

◎外国人と日本人の視点・対応に違いがあり、生活面での気づきが欠かせない。

◎私たちは自分の住んでいる町を見直し、共に生活する街づくりが望まれる。

今だからこそ、日本語ボランティア活動がますます大切になる

——地道な活動が大きな力に

東京ボランティア・市民活動センター 副所長 **安藤 雄太**

情報誌・ニュースレター「Nihongo Network News」50号おめでとうございます。心よりお祝い申し上げますとともに、その地道な活動と努力に対して深く敬意を表します。

思い起こせば、93年、私ども、東京ボランティア・市民活動センターが毎年開催してきました当時の「ぼらんていあ・めっせ・東京」（現在、ボランタリーフォーラム東京）で、日本語を教えているボランティアの取り組みをしている活動の分科会「外国人とともに歩む日本語教室」を設定しました。その当時、個人で、小さなグループで、国際交流センターなどで、苦労しながらボランティア活

動しているけれど、どのように教えているのだろうか、日常的にどのように接したらいいのだろうか、経費は、等々さまざまな課題があるにもかかわらず、情報交換する場がなかったため、「めっせ」の中でテーマとして取り上げたいという声がありました。また、地域のなかでさまざまな国から日本に来て、生活で、仕事で、教育の中で、多くのサポートの必要性が活動を通してみえてきました。

「めっせ」の終了後、日本語をどのように何を教え伝えていくのか、そのためにもボランティアの横のつながりをぜひ作りたい。そんな希望に応えた自主的なネットワークを立ち上げるのに東京ボラ



ンティア・市民活動センターもお手伝いをさせていただきました。

国際的役割を果たす日本に海外から多くの人たちが仕事や、教育を求め、そしてさまざまな方法でこれからも来日してくるだけに、日本語ボランティア活動の役割はますます大切になるのは必然だと思います。それだけに当初のミッションを大切にしながら、来日された人たちが、日本に来てよかったと思っていただけるような、息の長い活動を展開していただけることを期待したいと思います。

最前線で支える日本語ボランティア

東京都国際交流委員会 国際交流・協力情報コーナー 相談員 **友澤 享子**

「日本語を習いたいけど、どこに行けばいいですか?」「ボランティアで日本語を教えてくれるところを紹介して欲しい」などの問い合わせがあったとき、とっさに思い浮かぶのは東京日本語ボランティア・ネットワーク（TNVN）です。

150近い国々から35万人以上の外国籍の方が暮らしている東京。職場や学校、地域で理解ある友人・知人に支えられている人ばかりではないはずです。1日も早く地域に溶け込み、安定した生活がしたいと望む人たちにとって、生活する上での基本的な日本語に加え、日常生活上のル

ールなどを教えてくれる日本語教室は、学びの場であると同時に、地域社会の接点であり、東京砂漠の中のオアシスのようなところと感ぜられるに違いありません。

日本人はとかく異なる国籍や異文化圏の人に対し、必要以上の反応を示す傾向があるように思われます。大盤振る舞いのお客さん扱いか、はたまたガイジンというレッテルを貼って距離を置いてしまうか。今や、電車の中、アパートの隣の部屋から外国語が聞こえてくる日常にありながらも、私たちは日々、言葉というハンディを背負いながら、人間関係が希薄な大都会、

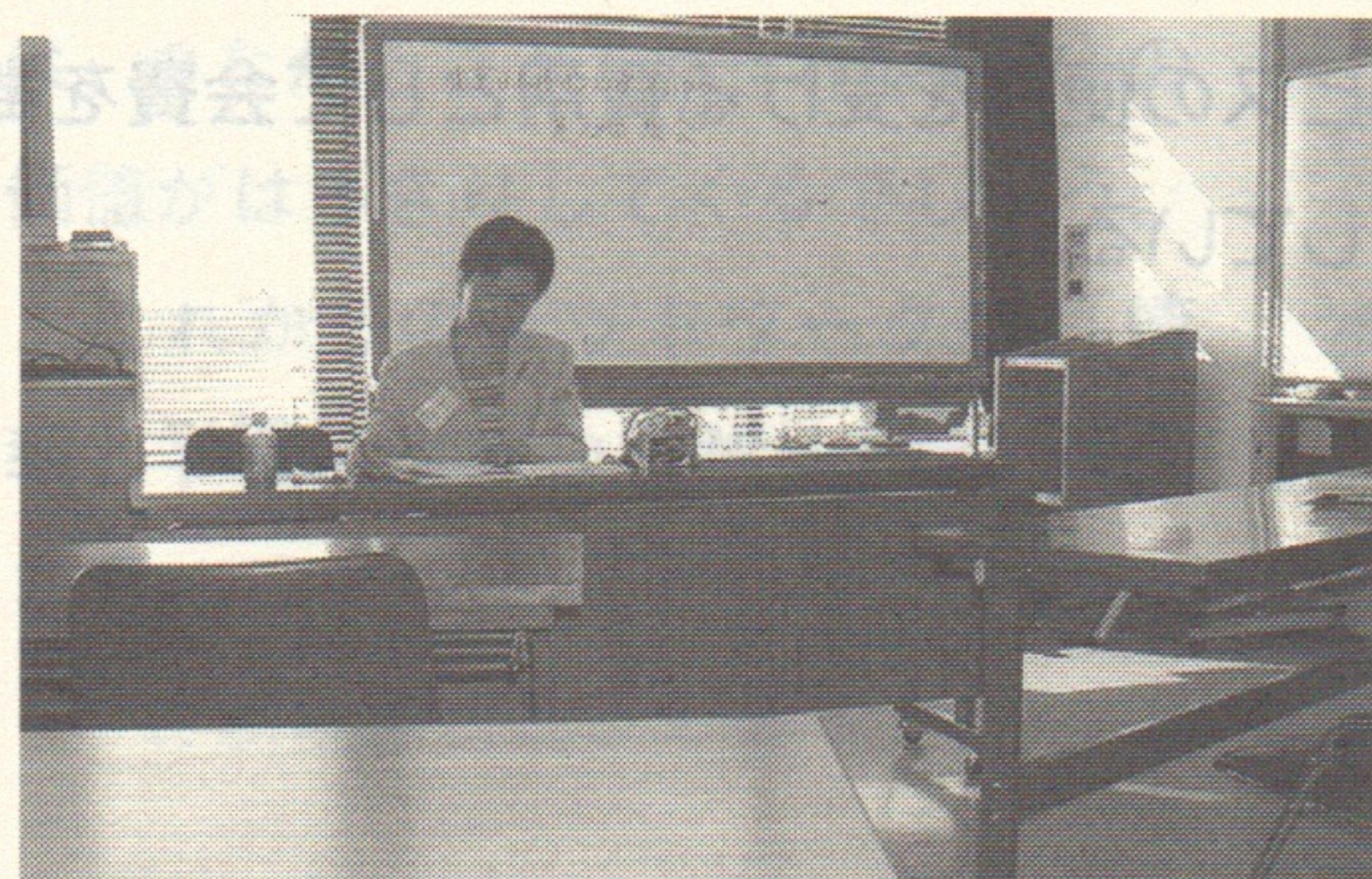
異文化の中で必死に格闘する人たちの痛みや苦労を理解し、手を差しのべることのできる、良き隣人になるのは難しいようです。

厳しい日本批判の中にある今、日本語を学びたい、日本のことをもっと知りたいと願う人たちを最前線で支えるTNVNのボランティアの方々を通して、一人でも多くの方に真の日本（人）が理解されることを願わずにはられません。民際交流としてのTNVNの素晴らしい活動を支える日本語ボランティアの皆さんにこころより声援を送ります。今後ますますのご活躍をお祈りしております。

日本語ボランティアとして、こうありたい

LTC友の会副代表 朝日カルチャーセンター・日本大学・津田塾大学非常勤講師

山形 美保子



杉並の日本語ボランティアグループ、『LTC友の会』の立ち上げから関わって、今年で11年目に入りました。当時、グループを組織化するにあたり、日本人ボランティアの中で、区や他団体などへと対外的に動く人、グループのコーディネートをする人、外国人と日本人との組み合わせを考える人、教室の予約を取る人、グループ内のニュースレターを作成する人など、さまざまな役割の分担決めをしましたが、私は日本語を教えることを仕事としていることもあり、教える（あまりいい言葉ではありませんね）場面はどう外国人と接したらいいのか、を考える役割を担当しました。

“イーブン”の気持ちで

そのときの私が思ったことは、ボランティア教室として、そこでは“日本人イコール教える人”、“外国人イコール学ぶ人”というふうに分業化したくない、ということでした。

つまり、

- ① 1人ないし数人の日本語学習者に対し、日本人ボランティアが立ち位置でホワイトボードでの板書を多様するような形式
- ② 先生、という呼び方を学習者のみならず、日本人のボランティア同士でも使うような仲間社会は、ともすれば分業化を植え付けてしまうのではないのでしょうか。

心構えとして

では、どうしたら日本人と外国人が同じ高さの目線で、日本語を媒介語としてコミュニケーションができるのだろうか、日本人はどのような心構えで外国人学習者と接したらいいのだろうか、と考えてみました。そこでできたのが下の心得です。

1. 心身ともに健康であること……これが一番！
2. 自分がしゃべりすぎないこと……注意した方がいい人、けっこう多いです
3. 相手をじょうずにほめられること……さらっとほめたいですね
4. 辛抱強いこと……相手が話そうとするのをゆっくり待ちましょう

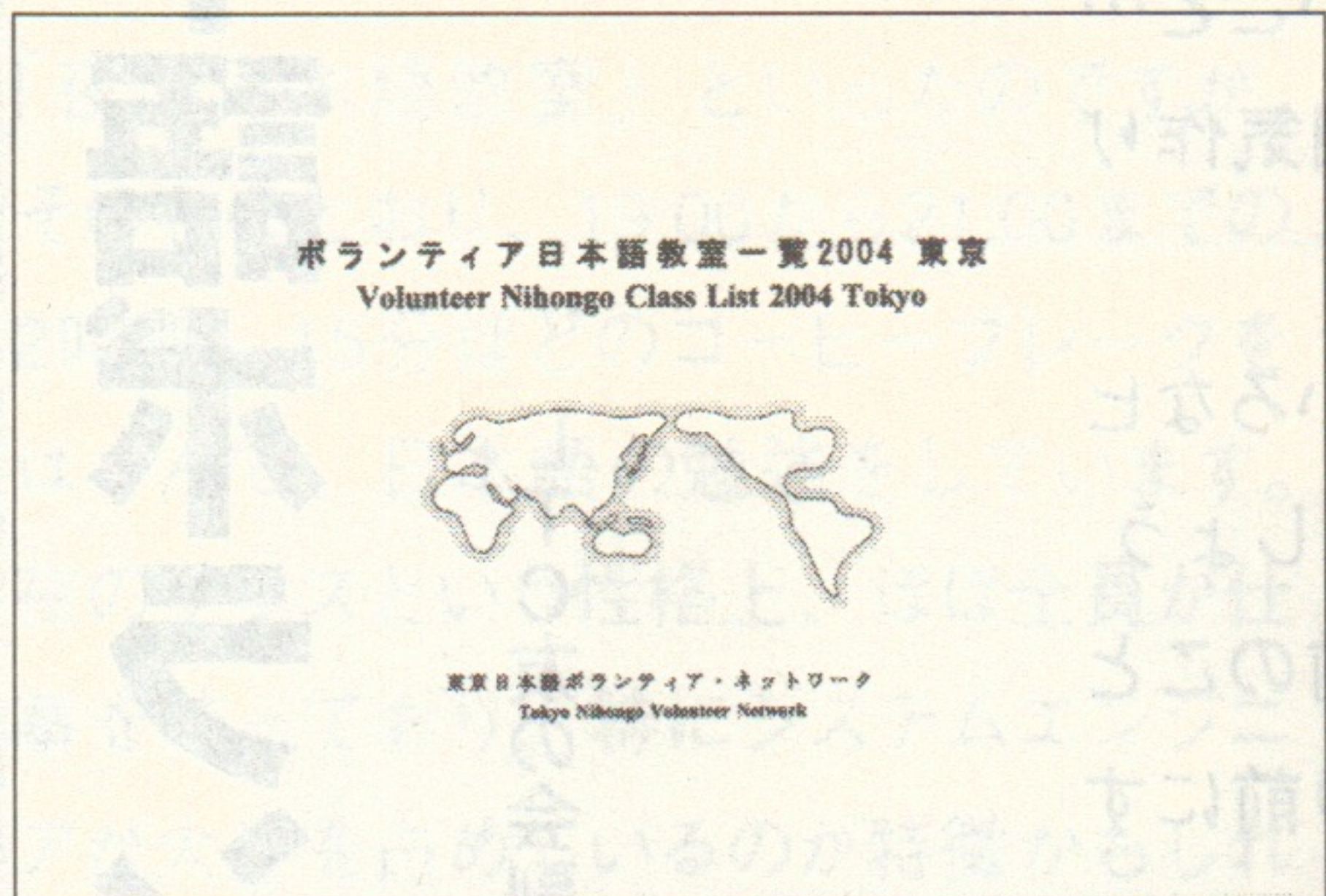
5. 言動に責任を持つこと……たかがボランティア、されどボランティア
6. いつも相手が見えていること……相手の表情や反応を敏感にキャッチ
7. 正直であること……わからないことはわからない、でいい！
8. 期待しすぎず、かつ見くびらないこと……気楽に来てもらえるような雰囲気作りを
9. 工夫する心を持つこと……いろいろなヒト・モノ・コトに好奇心を持ちましょう
これらはどれをとっても当たり前のことです。その当たり前のことを当たり前にするのがけっこう難しいと思います。また、日本語をボランティアで教えるためだけの心構えというわけでもありません。また、相手が日本人であれ国人であれ、人と人が接していく上でも基本的に必要なことではないでしょうか。

刺身になれるか

最後に機会があるごとにみなさんにお話していることがあります。それは、

10. 日本人としての鮮度が高いこと……刺身でおいしくいただけるような日本人と日本語です。日本語教育を仕事としていくうちに、おかしな日本語（発音でもアクセントでも文法でも）を話していても、それに気がつかなくなる日本語教師たちが少なからず出てきます。ボランティアで日本語支援を始めた人は、それ以前には日本語教育とは無縁の人が多いのです。だからこそ、日本語母語話者として、新鮮で自然な日本語が話せる、そんな日本語はへんだ、こんなことは日本語では言わない、とわかる感覚を持っている、ということを大事にして欲しいのです。長くボランティアをするうちに、生食用として供せなくなり、加熱してからお召し上がりください、そしてさらに、火を加えても食中毒を起こすような日本語を話すようでは困ります。常に生きの良さを誇れる、養殖物ではない天然物の日本人でありたい、このように私は思います。

ボランティア日本語教室の活動—3



「ボランティア日本語教室一覧2004東京」に掲載しました団体の活動内容をグラフにしました。支援者に関するデータです。参考にして下さい。

図-8 支援者の受入条件

地域で開かれた支援活動の中で、支援者の参加希望者を誰でも受け入れている団体が半数以上です。

一方日本語教授法を受けるなど何らかの資格を受入条件としている団体も多くあります。

図-9 支援者の受入時期

支援者を随時に受け入れして、学習希望者の対応している団体が大半ですが、必要時・受け入れない など 新規の支援者を受入ない団体もあります。

図-10 支援者会費

多くの団体は支援者から会費を取らず、一部必要な時徴収している。

一方で会員として会場の確保やその他サービスの便宜を受ける費用として会費を徴収している。

図-8 支援者の受入条件

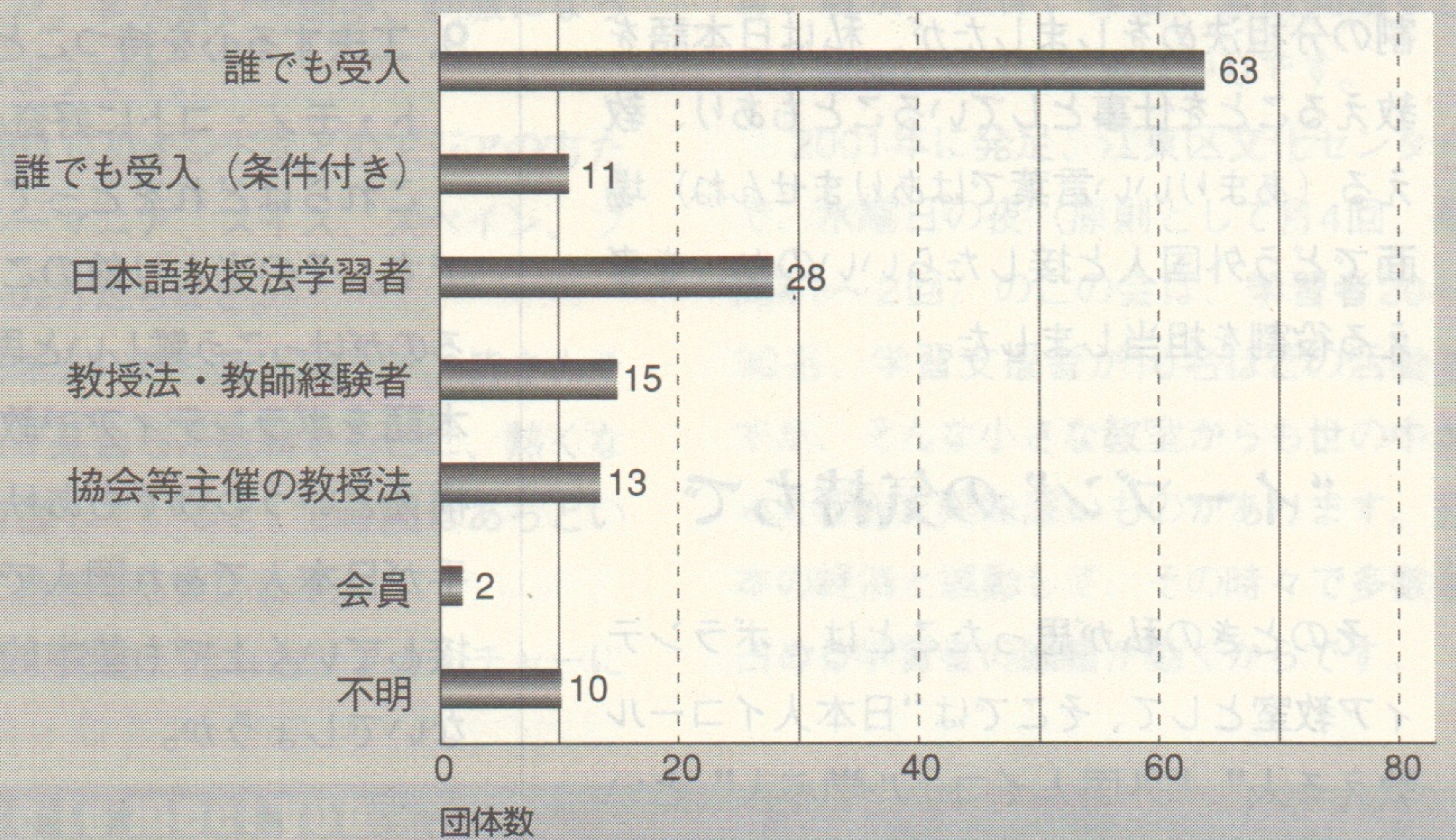


図-9 支援者の受入時期

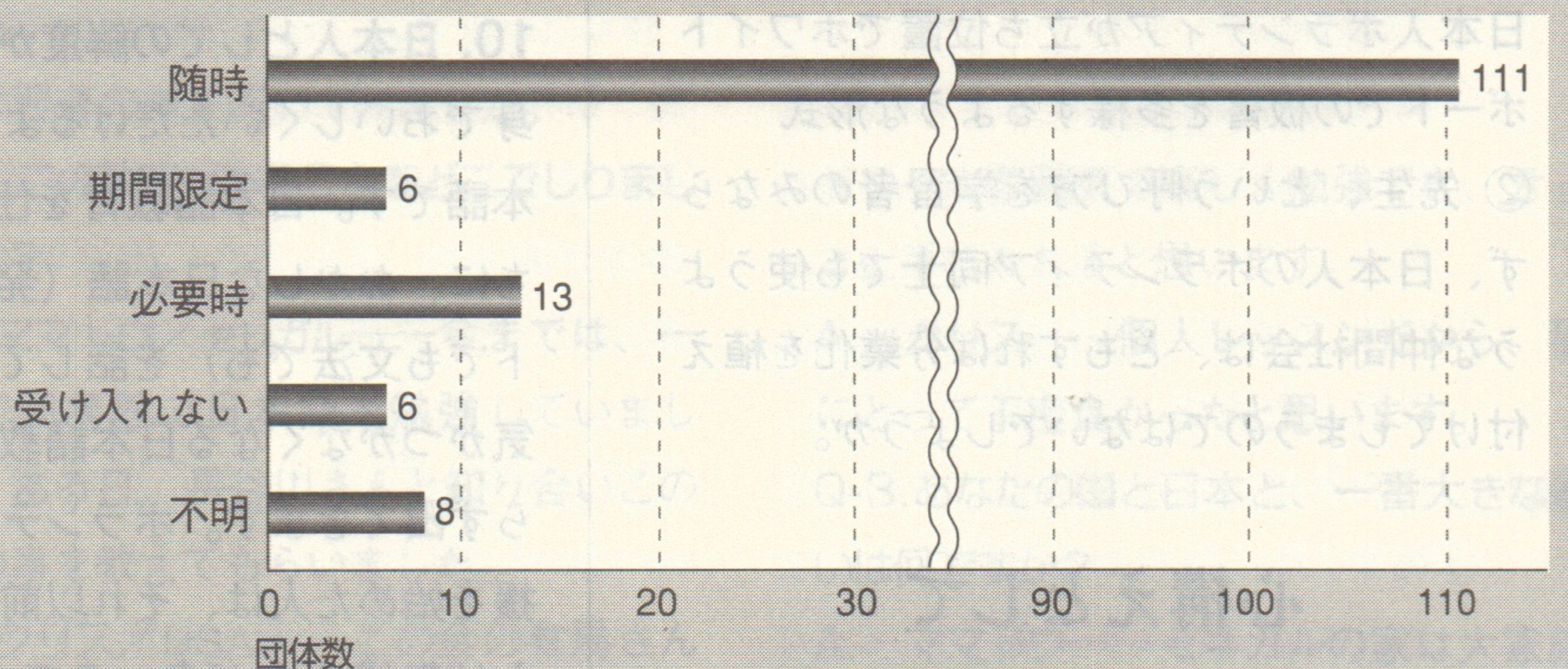
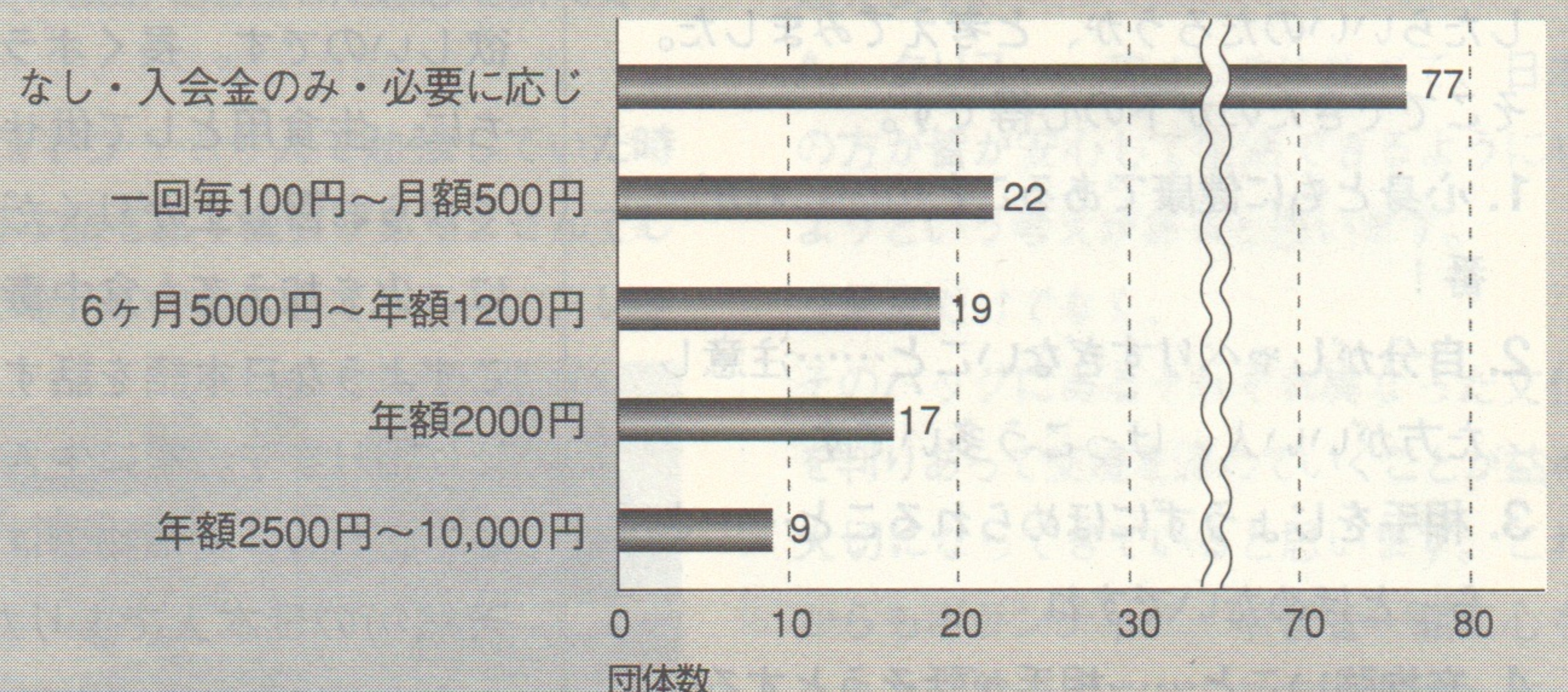


図-10 支援者会費



横のつながり——目黒区の場合

石原 弘子 (にほんごの会くれよん)

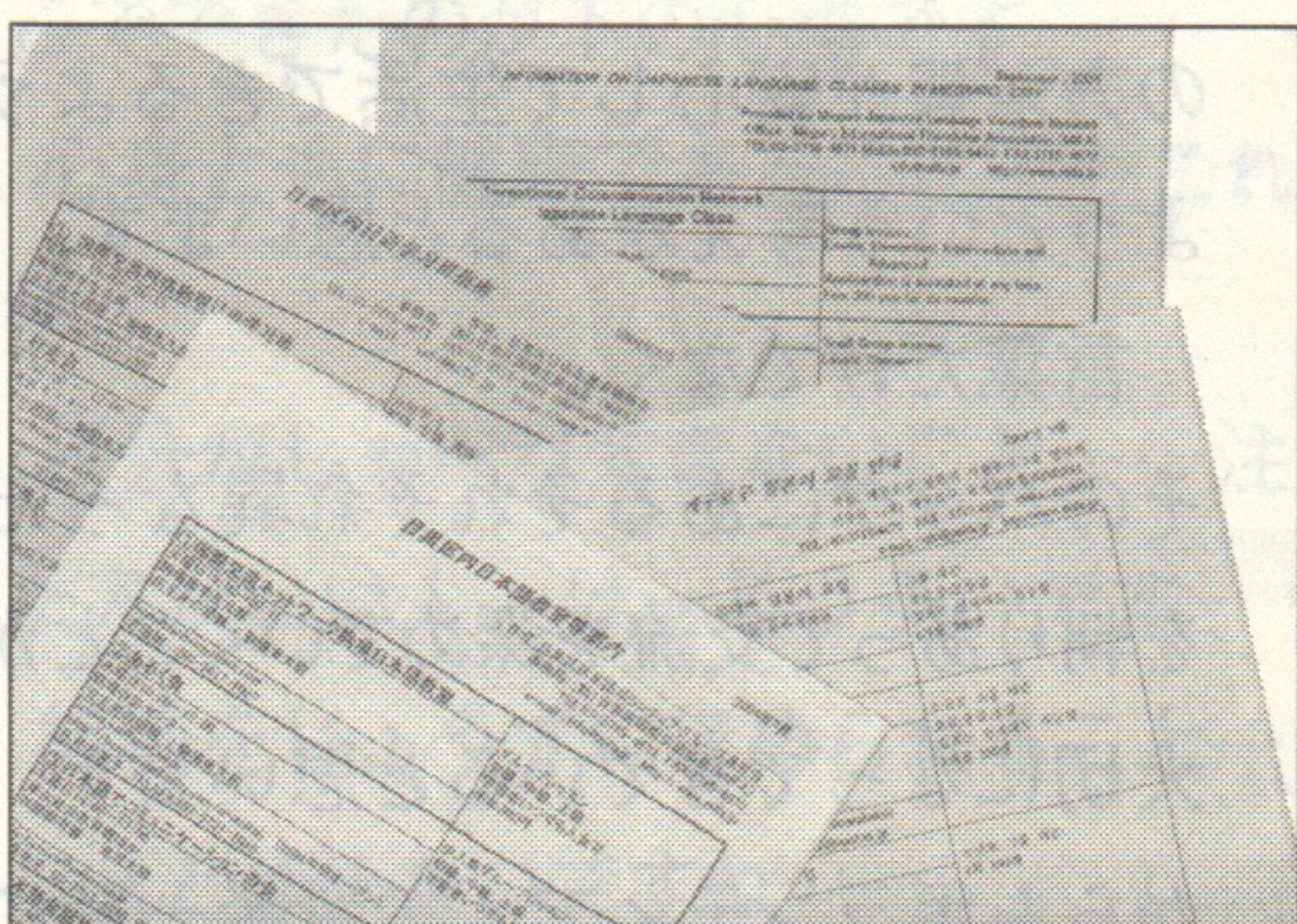
連絡先 / crayons@e03.itscom.net

目黒区は面積が23区中、16番目の大きさで、南北に長く変形した地形をしています。人口24万人、外国人登録者数3.3%ながら、区内には目黒区国際交流協会 (MIFA) が主催する「日本語会話サロン (昼、夜)」や目黒ユネスコ協会の日本語教室、そして、区民団体主催の場が7ヶ所もあります。

これら全部に通じるつながりはありませんが、次の3つから、これからのネットワークを考えました。

1.MIFAが中心となったつながり

- ①毎月発行のMIFAニュースに団体紹介、事業案内を掲載する機会がある
- ②毎年、日本語教室等案内を日本語、英語、中国語、韓国語で作成し、区内各所に配布してもらっている
- ③毎年7月に行われる「外国人による日本語スピーチ大会」に出場者を推薦、当日運営に協力している
- ④団体紹介のポスターをMIFA事務所内に常時掲示してもらっている
- ⑤日本語ボランティア研修講座最終回で団体紹介をしている



2.メーリングリスト (ML) でのつながり

2002年10月に坂井 (あるく会) と石原が発起人となって「めぐろ日本語ボランティアML」を始めました。現在43人の参加で当初から大きな変動はなく、最近では月10通ほど、研修会の案内、日本語の教え方、目黒区内の外国人の状況、ITを使った日本語学習援助法、新刊・旧刊テキスト紹介、日本全国の日本語ボランティア情報などが流れています。

3.研修会でのつながり

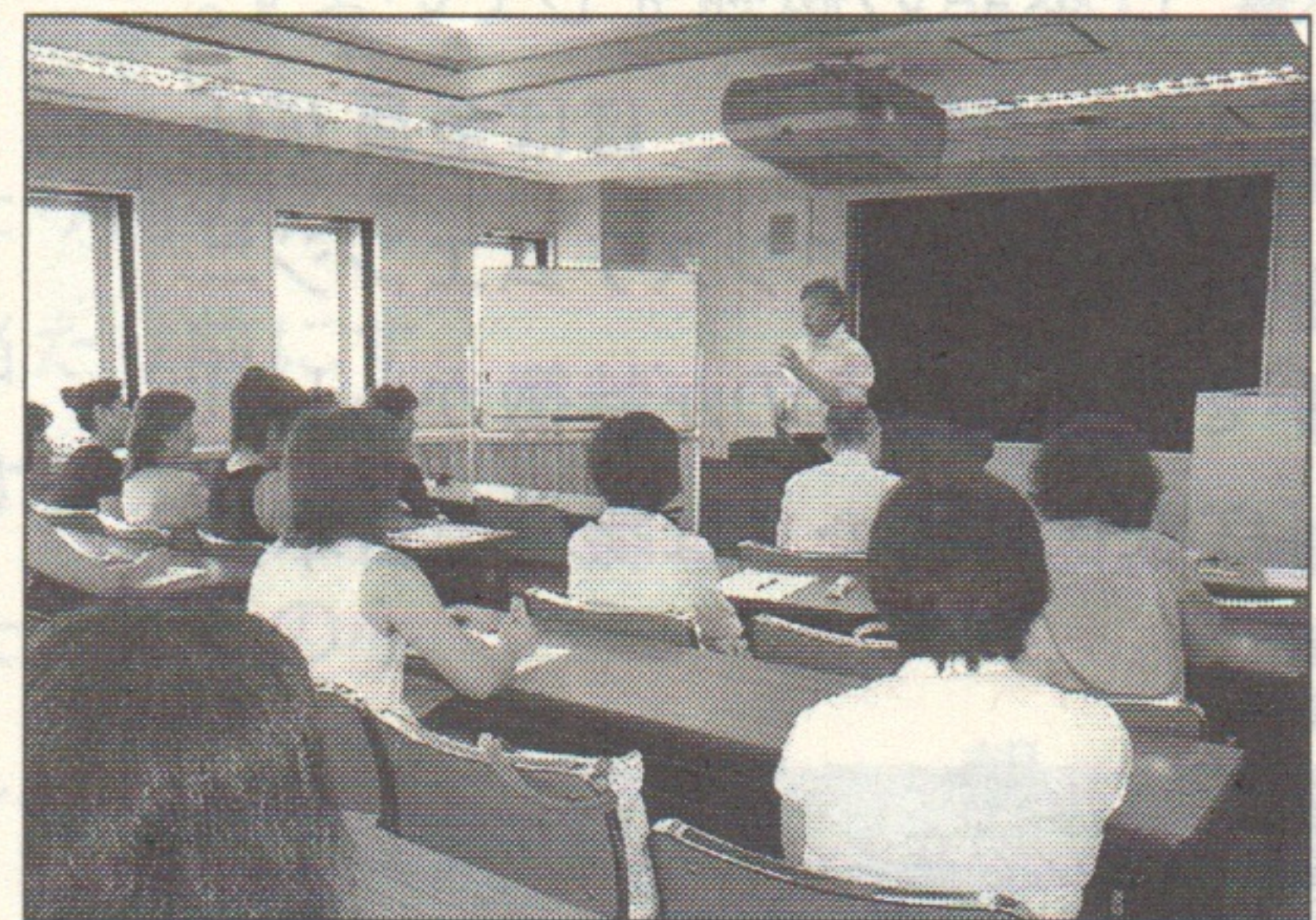
昨年は、ユネスコ日本語教育研修講座、MIFA主催の日本語ボランティア養成講座、にほんごの会くれよん研修会が開かれ、それぞれに他団体所属の人たちが参加、交流しました。

これからのネットワーク

2000年、MIFA主催の目黒区日本語ボランティアグループ連絡会が結成され、団体代表者が月に1回集まってきましたが、参加者が少なく固定化してきて、昨年後半から定例会が開かれなくなりました。

いままで、団体代表者がつながればネットワークができていると考えられてきましたが、個々人の意識に働きかけ、学習意欲を高めることに貢献するようなネットワークが求められるようになったのではと考えています。

「めぐろ日本語ボランティアML」



も、①ログインできないなどITを使う力、関心度に差がある。②知らない人に向けて発信することに躊躇する人が多い。③情報をもつ人ともたない人の差が大きいという問題がありますが、ウイルス蔓延時にも参加者が大幅に減らなかったことから考えると、情報を待つ人は多いようです。

昨年のくれよん研修会では所属の違う人たちと交流でき、研修内容が深くなり、ML上で名前を知っていても顔を知らなかった人たちが出会う場ともなりました。MLで知った研修会に参加する人がいることも分かりました。

団体の枠を超えて参加できる身近な地域の研修会は、活動に刺激を与え、新しく活動に参加する人を増やす機会となっています。

MLを活用して、もっと多くの人から情報を提供し、刺激しあい、顔を合わせて話し合い、学ぶ機会が増えれば、つながること (ネットワーク) の価値がはっきりしてくるでしょう。

これからのネットワークは、「情報と学習によるつながり」だと考えます。

nice to meet you

職場で日本語を使うことがすくないので、教室に!!

グッドナイト日本語教室

嶋田 信子 (江東区)

「グッドナイト日本語教室」は、はじめ「夜の日本語教室」といったのですが、その名のとおり、19:00から21:00までの2時間、15分ほどのコーヒブレイクをはさんで、日本語の勉強をしています。夜のクラスという性格上、ほぼ全員が仕事を持っており、特にシステムエンジニアが大半を占めているのが特徴かもしれません。IT関係の方たちは職場で日本語

を使うことが少ないので、教室に来て全面的に自分と向き合ってくれる日本人がいて、コミュニケーションが取れるということが、また喜びや励み、刺激になっているようです。

中国はじめインドなどのアジアの方たち、ルーマニア、スイス、スペイン、ブラジルの方たちなど。ゼロビギナーから超上級まで。皆さんそれぞれが見合った教材をもとに、熱くなって勉強していると、2時間はあっという間に過ぎてしまいます。

日本の文化、それもサブカルチャーに



類することまで聞いてくる旺盛な好奇心。応える方もたじたじで、改めて日本の教育、経済、法律、保健、家庭問題など勉強させられる事ばかりです。

2001年に発足、江東区文化センターで、水曜日の夜(原則として月4回、年間41~2回)のこの会は、学習者20~30名、学習支援者が10名ほどの活動ですが、そんな小さな教室からも世の中がみえてきて興味深いものがあります。日本の経済と連動して、その時々で多数を占める学習者の国籍が動くからです。

会員団体紹介

Nice to Meet You

「杉並日本語会話の会」は2004年10月に発足した生まれたばかりの会です。杉並区立高円寺北会議室で毎週火曜日午前10時から11時30分まで、原則マンツーマンで日本語の勉強をしています。

この会を立ち上げたのは、「子供が保育園などに行っている間の午前中に日本語を勉強したい」という主婦の方々の要望があるのを知ったからでした。最初の二ヶ月は来ると言っていた学習者が突然帰国してしまったり、火曜日に限って強い雨が続きたりで、学習者が一人も集まらずボランティアだけで、「我慢我慢」「そのうちきっと…」などと言い合いながら日本語や日本文化の勉強をしていました。

そのうちネットやチラシ、口コミなどで教室のことが知られるようになり、主婦だけでなく午後のクラスに通う日本語学校生や、社会人などの学習者が集まりだし、最近どうにか運営が軌道に乗ってきました。ボランティアの希望者も多く、たくさんの学習者が集まることを期待しています。

nice to meet you

子どもが保育園に行っている間に日本語を勉強

杉並日本語会話の会

有馬 歌子 (杉並区)

学習者の声を聞いてみました。

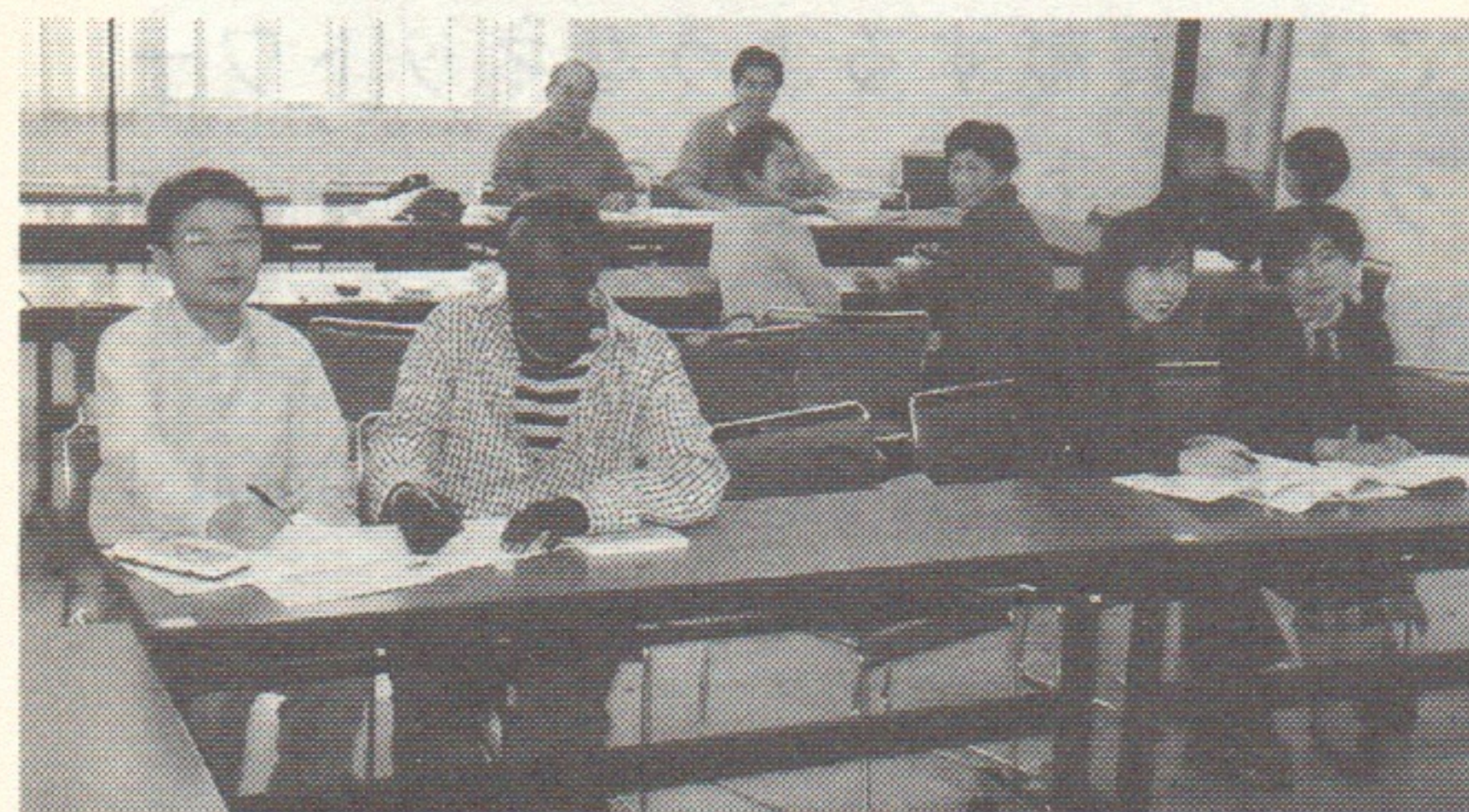
Q-1.この教室があることをどこで知りましたか?

A. ママドウ/セレガル——今までは、一人で図書館で日本語を勉強していました。ある日、長谷川さんと知り合いこの会の事を教えてもらいました。

A. クリス/USA……この会の有馬さんが、私の英会話レッスンに来ていました。有馬さんからこの会の事を聞きました。私ももっと日本語を勉強したいと思っていましたので、すぐ参加しました。

Q-2.この教室で勉強した感想を教えてください。

A. ママドウ……一人で勉強していた時は、日本語を話す機会がありませんでした。でも、この会にきてみると、フレン



ドリーな雰囲気です。楽しく勉強でき、きっと上手になれると思います。

A. クリス……個人レッスンだから、私にとって丁度良かったと思います。

Q-3.あなたの国と日本と、一番大きな違いは何ですか?

A. ママドウ……セネガルの家は大家族でびんぼうだけど、みんなたすけあい楽しくくらしています。

日本の家族は豊かで少にんずうなのに、一人一人べつべつにくらしているように思えます。

A. クリス……アメリカに比べて、日本の方が皆が安心して生活できるようにしようという考えがあると思います。

言葉だけでなく、そのバックにあるそれぞれ異なった文化を判りあって交流を深めていくことが益々大切になってきていると思います。これからもボランティア・学習者一緒に心を合わせ、楽しみながら教室を運営していきたいと思っています。

学習者の声
特集

私の主人は
日本人です

鄭宏玉／中国
早稲田奉仕園日本語ボランティアの会（新宿区）

国際結婚という事、私にとって、
何となく不思議だと思います。

夢にも思わなかったのは、自分も
国際結婚することになって、日本人主人
の妻になったことです。

大学三年生の時、日本人留学生の友達
の部屋に遊びに行きました。そこで今の
主人と知り合いました。主人は私の友達
のルームメイトでした。

その後、主人の中国語家庭教師になっ
て毎週三回ぐらい二時間ずつ中国語をお
しえました。私にとって楽しいアルバイト
でした。あんまり知らない日本のことをも
っと知って、ときどき日本製のお菓子、
お茶、漫画本などもいただきまして、気
楽に教えていた。

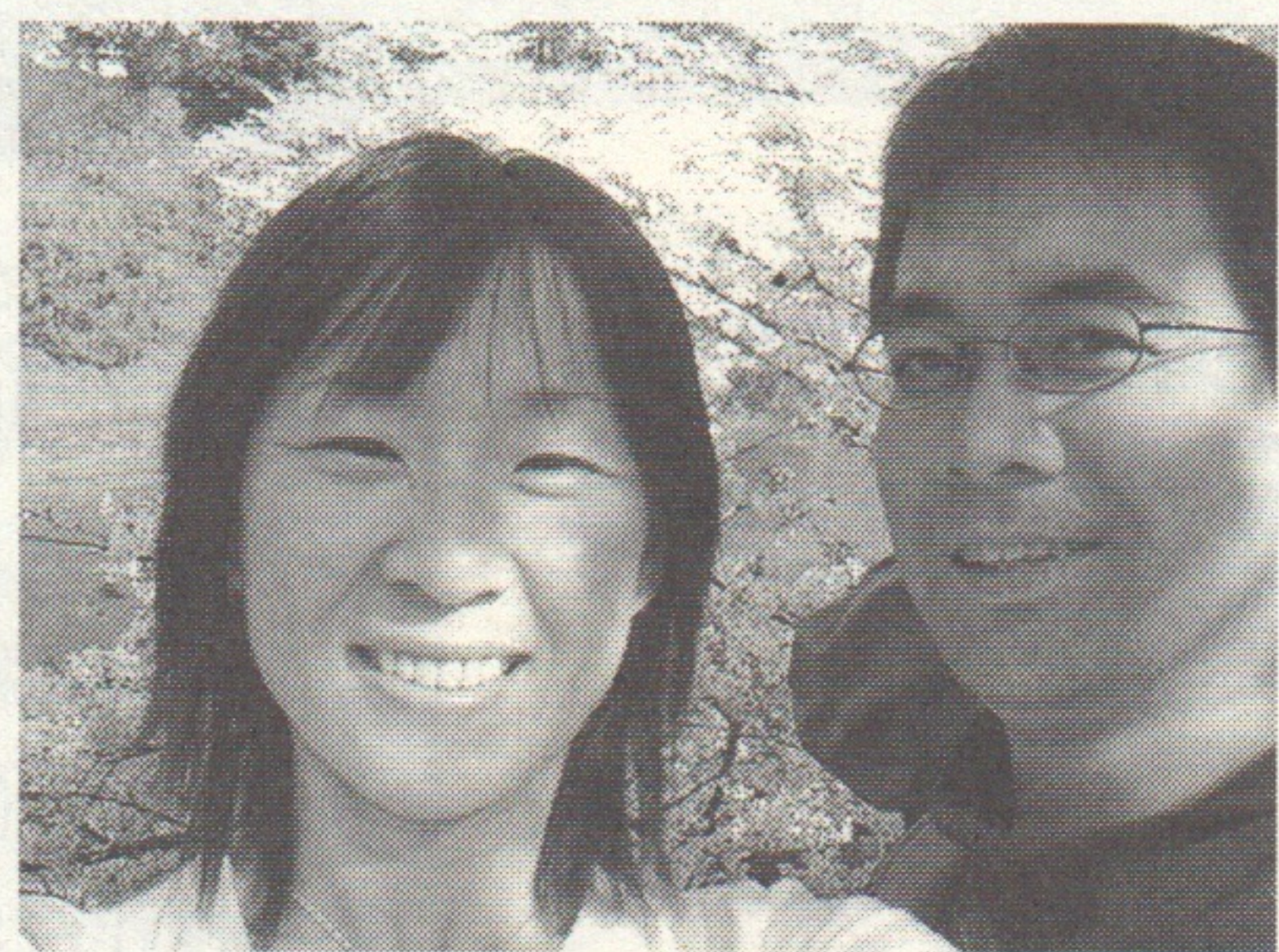
交際七年目、ふたり結婚しました。私、
日本人の妻になりました。

“お宅の料理は何んですか？中華ですか？
日本料理ですか？”とよく聞かれました。
そうですね。中華か？日本か？実はう
ちの料理は多国籍です。だいたいその日

鄭さんの手料理



の都合によって作ります。中華、
日本、イタリア、韓国など、いろ
いろ作ります。食事の面から見
ると国際結婚の付合物の一つは国際
食卓だと言っても良いでしょう。
主人と付き合っ、留学生の友達
も増えてきて、日本に来て、日本



語ボランティアでけっこういっぱいな外国
人友達も作りました。したがって食事の
面も幅広くなりました。食べ物大好きな
私にとって、嬉しいことです。

お宅で二人は何の言葉でしゃべります
か？もよく聞かれました。最初知り合っ
た時、うちの主人の中国語レベルはゼロ
状態で、お互いの交流は辞書と身振り手
振りでした。日本に来る前、二人は中国
語で話しました。日本に来て、二人の間
日本語で話すことが増えてきましたけど、
やはり中国語で話すほうが多いです。夫
婦けんかになった時、全部中国語です。
私の日本語はまだまだです。一つ決意し
たことは、将来子供に私はぜったい中国
語を使って話します。主人の方はもちろ
ん日本語です。

おかげさまで、この何年間私と日本の
主人ずっと仲良くやってきました。けど、
国際結婚はまだいろいろの問題がありま
して、私たちの努力と皆さんの理解は大
事なことだと思います。

わたしのしゅじんのなまえはいとうふみ
ひです。とてもいいひとです。

しごととちゃんとがんばってます。でも
たまにおそくかえるのでいつもしんぱいで
す。だいたいおさけをのんでるからうんて
んがだいじょうぶかなとしんぱいしていま
す。しごとのあとおさけをのむのはたぶん
にほんじんのぶんかです。

あとやきもちもやくけどしょうがないね、
あいしてるから。

ーしゅうかんに一回どこかへあそびにい
ってます。たとえば、かいものとか大きな

こうえんとかレストラン（ファミレス）に
いってます。こどもたちといっしょです。
ほんとにやさしいしゅじんです。えらんで
よかったです。わたしはラッキーです。げ
んきでしあわせなファミリーがいます。



伊藤マルキーサー／フィリピン
やさしい日本語（江東区）

わたしのだいすきな
しゅじんです

私の主人は日本人です

向原 モナリサ / フィリピン
やさしい日本語 (江東区)

きはなしもできないからわたしはおこります。いつも「なんでテレビばかり見るのかな」とかながえます。ときどき夫とえいごのべんきょうをします。夫とえいごでかいわができたらのしいとおもいます。



わたしの夫はとてもやさしいのでわたしはたいへんしあわせです。でもたまに夫のせいかくがわからなくなります。それはたぶん日本人のきしつかなとおもいます。

まいとくんが生まれてから夫のりょうしんに大きいおさかなをもらいました。それは「こいのぼり」とにほんごきょうしつでなりました。まいねん、夫とこどもとみんなでいっしょにフィリピンへかえってビーチへあそびにいきます。

夫はテレビがいちばん好きです。おじやまがきらいです。夫がテレビを見ていると

らをつけるかわかりませんでした。

でも、げんばの人たちがしんせつにおしえてくれました。やねのはしらまでつけました。

オーナーさんかぞくの人たちがげんばにきました。

オーナーさんとむすこさん、げんばのしゃちょうさん、げんばの人4にんのごうけい7にんの人たちがたてまえでいえの二かいにのぼり、まんなか7このさかずきをおき、おさけをついで、しおをもり、こめをおきました。

そのあと、いえの4つかどにこめとしおとおさけをおいてのりました。

さいごにこめとしおとおさけをげんばのまんなかにおいて、むねあげしきはおわりました。

そのあと、オーナーさんがげんばの人たちをしょくじによんでくれました。げんばの人たちみんなにプレゼントをくれました。わたしたちは「おめでとうございます」といいました。

日本にきてからはじめて、このでんとうぎょうじをみました。とてもおもしろかったです。

二ねんまえに、トルコのイスタンブールから日本にきました。

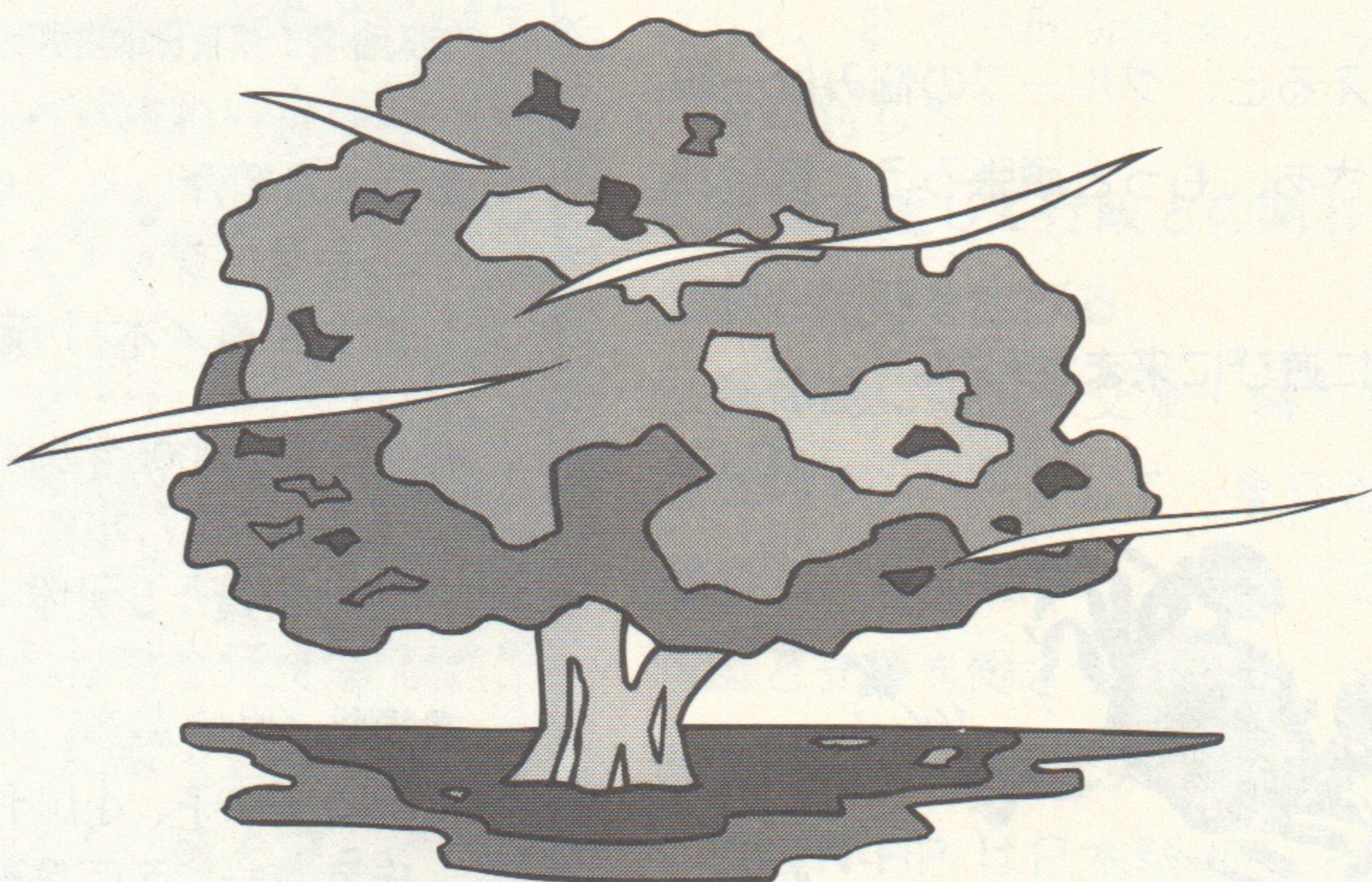
わたしのおくさんは日本人です。7ねんまえにおくさんとトルコでしりあい、トルコでけっこんし、日本にきました。

わたしは日本でとそうのしごとをしています。日本でのとそうのしごとのやりかたはトルコのやりかたとちがいます。

日本にきて、8かげつにほんごがはなせなかったのしごとありませんでした。いまはいい会社でいいしごとをしています。しごともたいへんですがまいにちちがったげんばで、ちがう人たちとあうのはとてもたのしいです。このまえしゃちょうから「こんどのにちようび、たてまえのいえにいくように」といわれました。

わたしはそのげんばで、はしらをつけるしごとをしました。

このしごとははじめてでどうやってはし



とそうのしごとを しています

ケメルバシユ・ムスタファ / トルコ

町田日本語の会 (町田市)

NETWORK INFORMATION

東京日本語ボランティア ネットワーク事務局



TNVN東京日本語ボランティアネットワークはボランティア日本語学習支援活動を行っている団体のネットワークです。TNVNの会員はそれぞれ地域での日本語学習支援活動を通し、言葉のため日常生活に不自由を感じている外国人などを、隣人として支援しています。TNVNは会員への情報提供・会員相互の情報交換、および外部との情報受発信を行い、活動の活性化を図ります。

東京日本語ボランティア・ ネットワーク事務局の活動

◆日時：毎週金曜日
第1、第3、第5 金曜日／午後2時～4時
第2、第4 金曜日／午後2時～6時

◆場所
東京ボランティア・市民活動センター
JR、地下鉄(東西線・有楽町線・南北線・
大江戸線—出口B2b)飯田橋駅下車
セントラルプラザビル 10F ロビー

◆日本語ボランティア相談窓口
日本語ボランティアの活動についてのご相談・ご質問にベテランスタッフが応えています。電話でご確認の上、気軽にお越し下さい。また、メールでのお問い合わせにも応えています。ご意見もお待ちしています。

〒162-0823 東京都新宿区神楽河岸1-1
東京ボランティア・市民活動センター
メールボックス No.4

●TEL：03-3235-1171
(呼出：金曜日活動時間帯のみ)

●FAX：03-3235-0050
●E-mail：webadmin@tnvn.jp

●URL：http://www.tnvn.jp/
●郵便局払込

口座番号：00100-1-719259
加入者名：東京日本語ボランティア・ネットワーク

●新会員紹介
正会員／グッドナイト日本語教室
協力会員／木村 茂

●会員数(2005年5月15日現在)
正会員：77団体 協力会員：67名
賛助会員：5団体

●編集／岩佐 幹彦、大木 千冬
岡田 美奈子、小川 伶子、梶村 勝利
床呂 英一、西岡 暉純、林川 玲子
●レイアウト／鶴田 環恵

TNVN会員のための メーリングリスト(ML)に ご参加下さい

会員メンバーが相互に情報交換をする場や、各地で色々な講演会、研修会、催し物などの情報を共有するために、TNVNではML：tnvn-all@freeml.comを作り、ネットワークとしての機動性を高めるようにしています。参加されるメンバーを"e-member"とします。"e-member"には正会員(団体)、協力会員(個人)、正会員団体で活動しているメンバーにご参加をいただきます。現在、正会員49団体、協力会員14名の方々がMLを活用されています。

まだMLに参加されていない団体会員(正会員、賛助会員)の皆様、会員団体で活動されているボランティアの方々に、MLへの参加

をお願い致します。
MLへの参加をご希望される方は団体名、氏名、メールアドレスをTNVNアドレス：webadmin@tnvn.jpまでご連絡ください

TNVNへの入会をお待ちしています

詳細はTNVN事務局まで「活動・入会案内」を郵便でご請求下さい。(送料90円切手同封)

TNVNスタッフ募集!!

TNVNの事務局スタッフ・ニュースレター編集員となってTNVNスタッフと一緒にボランティアでご協力いただけませんか。TNVN事務局までご一報をお待ちしています。

ニュースレターの記事大募集!!

ニュースレター編集担当までご連絡下さい。

TNVNのニュースレターは今回50号の記念号を発行します

50号発行を機にタイトルが新しいデザインでTNVN nihongo network news からTNVN network news となりました。「ニュースレターの歩み」を2頁にまとめました。これからも地域の現場で日本語ボランティア活動をしている支援者・日本語学習者を結んで、広く活動の様子や活動に関わる意見・感想・情報をお届けします。

本ニュースレターには会員の方々に開かれたモノです。

是非、これからも紙面を通して積極的な参

加をお願いします。
TNVN事務局は毎週金曜日にボランティアスタッフ(役員を含む)が交代で対応をしています。このボランティアスタッフがニュースレターの編集を行っています。一緒に作業をしていただける方を募集しています。事務局は集まった人達での情報交換の場にもなっています。レイアウトは鶴田さんに在宅でお願いしています。新しいタイトルのデザインも鶴田さんをお願いしました。

(K.K)

事務局便り

日本語しか話せない私なのに、言葉の壁にぶつかってしまう。”ああ！何と言ったけ”といつもからまわり。意味は多種多様です。そんな時、いつも笑って歌って例文をさがす。歌の言葉は簡潔で美しい。日本の風土や人の心を良く表している。季節感のあるのを歌うと拍手を貰ってうれしい気分。

今日は金曜日事務局の仕事です。

教えたい人、習いたい人が資料を求めて時たま見えますが、一人でいると人恋しく同

じ仲間に出ると、グループの悩みは一段と燃えて、さあ、もっと頑張ろうと気分があがります。

誰か事務局に遊びに来ませんか。

(C.O)

